賀茂社記録

832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

秘

832
97
305

2

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

賀茂本宮ハ社右来相兼神躰秘訣

本宮　天津彦火瓊々杵尊

是右傳也左様奉見受ル事代主命ト奉見ヘシ證文ホ
有之候也下社モ祢宜方祝方傳来ノ遠ト有ニ祢宜方梨木
祐之坏申ハ本宮ニ坐祝方神武天皇　祢宜方大己貴命
ト申ス又祝方ヨリノ傳ヘハ祝方事代主命祢宜方大己貴命
ト申ス是古傳ナリ尤可トスヘシ然加翁モ祐之ノ意ヲウケテ
神武天皇ト奉見イツレ當社トハナレサセラレサル神也仍御祖ト
申別雷ト申モ御徳義ヨリ申ス儀ナリ
事代主命　御事大徳　御神書ニ委シ

帝国図書館
大正
7. 2. 2
購求

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

神代巻曰大己貴命對曰當問我子然後將報是時其
子事代主神遊行在於出雲國三穂之崎以鈎巣為樂
故以熊野諸手舩載使者稲背脛遣之而致高皇産
霊勅於事代主神且問將報之辭時事代主神謂使者
曰今天神有此借問之勅當奉避吾亦不可違因
於海中造八重蒼柴籬蹈舩枻而避之右ノ如ク大己貴命
我子ニ尋シ上御返答仰上ラルヘキ由シ御ラレシハ此國大己貴
命ノ御大功ニテ万民モナツキ治シ故勅命ナレハトテ容易ニハ
奉ルマシキ思召ユヘ先我子尋上トト仰ラレシ者也然ル処事代
主命天子ノ勅ヲ受テ父ヲ諫譲シテ徑ナニ去給フ尤
御父子共御隠レアソハサレシナリ事代主命ハ蹈舩枻而避之ト
アリ大己貴命ハ言詑逐隠トアリ未ル事代主命ノ御一言ニテ
天下大ニ定リ天孫モ此國降臨遊サレシナリ事代主命ハ大徳
忠臣御神ナリ去ルニヨツテ臣下ノ神ヲ皇太神宮トアカメ
奉ルモ此御大徳ユヘナリ尤皇ノ字ヲ授ラレシハ吉田ノ考ニ
圓融院御宇也トミヽ又伊勢八幡ハ宗廟之神ナリ賀茂
ハ社稷神也社稷ハ臣下ノ義也御徳義無ラレテ何ソ臣下
皇ノ字ヲ授重御崇敬アランヤ扨蹈舩枻而避トアリ何
ソヘ去給フナレハ今ノ當社舩着ヘ御着ナリ隠タルヲ顕ハト
明カナルハナキユヘ見アラハストニヨリ今ノ御生所ト云モ此

事ヨリ起レリ今人ノ生ルヽモ同事ナリ又大和賀茂海
ニ山風ノ西吹ハ何レノ浦ニ御舩ツナカントヨミ讀シ歌ハ事代主命
ノ國ヲ天孫ヘ御譲リナリ武勇ヲ以テ天孫ニ従ヒ給ハヽ
天孫イツクヘ御座被遊御即位有ヘキ哉トヨミ給ヒシ何レ
ノ浦ニ御舩ツナカントノ詠ナリ大和ハ我國ノ惣名賀茂賀
茂ニテ事代主ノ御事ヲイヒ出シ歌、海ニ山嵐ノ西吹トハ國ヲ
天孫ヘ譲リ給ハヽ勇猛ヲ以テ背キ給ハヽ如何アルヘキトヨミ給ヒシ
ナリ今毎歳四月御禊ノ夜御生所ヨリ御神幸ノ時
笏拍子ヲ発シ唱奉ル秘歌ナリ注進雑記ニ賀茂祭ノ
日詠トアリ

一御正躰ハ御璽箇トアレ共文明一乱ノ時御焼失ニテ今ハ無
之左御爾玉ノ箇ノ義ハ口傳有義ナリ

一神位ハ正一位勲一等御袍ハ則正一位ノ御服也又下社御袍
ハ黄櫨染ニテ天子ノ御服是神武帝ト見奉ル故歟往
古ヨリノ義カ中古ノ義歟猶尋ヘシ又他社ニモ正一位モアレ
共(松尾社アリ)勲位ハ無歟勲位ハ軍功ノ爵ナリ神位ノ義ニテ奉見之ヘ
當社臣下ノ神トシテニシテ誠ニ明ケシ古傳ノコトク瓊ニ幷
尊ニテ二ツナハ天子ニ位階被授義甚不審又皇ノ字
ノ義モ圓融院御宇皇ノ字被授義是亦不審天子ニ
テマシマサハ皇ノ字ハ不被授ヒ勿論ノ義ニテアルヘキ歟勲位

ノ義ニテ見タテマツレハ勲位軍功ノ爵ナレハ事代主命
ト窺ヘシ

一四月御祭御禊御生所ノ義先賀茂祭欽明天皇(人皇三十代)
ニ始リ今ノ神殿天武天皇(人皇四十代)六年二月丙子日山城國ニシテ
賀茂神宮ヲ營セラルトアリ祭ノ始ヨリ神殿ヲ營セラレ
シニテハ十代後ナレハソレ迄ハ今ノ御生所ヘ勅使ヲ立ラレシ
ナリ神殿營セラル後ハ今ノ御殿ヘ勅使ヲ立ラル御禊
神幸ノ義ハ神殿營セラレシ時御生所ヨリ遷シ奉ル
儀式也左ハ神社祭礼ニハ多先已前ニ御旅所ヘ御神
幸ナリテ當日祭リニ本殿ヘ御還幸ナリ當社ハ左ニ

アラス御生所ヨリ新御殿ヘウツシ奉ル昔ノ作法ナリ

一諸抔物ニ丹塗ノ矢川上ヨリ流レ降ルヲスナヲチト
リテ床ノ邊ヨリつよく引テ男子ヲスルトアリ此
御子則事代主命ナリ丹塗ノ矢ハ大已貴命ナリ御
名ヲアラハサス矢ト書シハ大已貴命ヨヒムカヘラレサル婦
ミアニシニスエヘカノ御名ヲアラハサス矢ト書シ且貴キ神
ユヘカノシルシノトナリ

棚尾社　后　木花咲也姫命

是右也本宮ヲ瓊ニ杵尊ト奉見ユヘ如此事代主命ト
見タテマツル上ハ相変急度定タル證ナシ後勘ヲ待ヘシ

竹岡社　大巳貴命　御供七有一躰七名故也

是右傳之通リ相違ナシ

諏訪社　御子事代主命

是非也　左大巳貴命ノ御子ナレ共事代主命アラス信州諏訪郡諏訪社ト御同躰也旧事紀ニ大巳貴神其子亢有百八十一神娶高志ノ河沼姫生一男児建御名方神坐信濃國諏方郡諏方神社ニ云々

貴布祢社　高龗

奥素戔嗚尊傳　神代巻曰抜釼斬軻遇突智為三段其一段是為雷神一段是為大山祇神一段為高於簡美

右右傳之通相違ナシ併奥主素戔嗚尊ト云ヘル義非也昔ハ奥社一社ニテ有シカ後冷泉院御宇天喜年中ニ洪水出テ神殿ウツニリレユヘ端ノ山ヲ開キ神殿ヲタテ奥ノ御魂ヲ勧賞シ祭礼ヲ執行也其後奥モ又開キテ神殿ヲ造営也依テ奥端ヲ奥社造営ノ毎度遷宮ノ時什引也御戸開ト云ヿナシ故ニ神殿ノ下龍穴有テ底ノ深サ知レス右ノ龍穴ヲ御正躰ニイ玉ルヘシ此外祇園社神殿ノ下ニモ如此龍穴アリトナリ昔合戦ノ時神殿ノ下ヘ多ノカクレシカ一人モ生テ出ル者モナカリシトナリ

新宮　川尾　山尾　高於箇美「藤尾社　在河邉社也

五百年斗以前當所ト鞍馬有申分道路之往来斷絶故奉勸請祭欤

右古傳之通ニテ貴布祢社ト御同躰也又山尾川尾藤尾三社トモ御同躰也御魂ヲ分ケ祭ル者也藤尾社在河邉社ト有ルハ誤也川尾社ノ義也又鞍馬ト申分トイヘルハ鞍馬ヨリ貴布祢社者當寺ノ鎮守ト申シ掛ル事也委細其時之文書證文ホ今評定中箱ニ有之

大田社　猿田彦命　一念発生神也左右小社一體

福德社并才天鎮守社不分明

右古傳之相違ナシ左右ノ小社ハ猿田彦ノ御德ヲ夫ニ分テ御魂ヲ祭ル者ナリ大德御神故ナリ先壽命ノ方ニテハ白髭ト申幸福ノ方ニテハ幸神又ハ福德社ト申ス伊勢ニテモ大德神ニヘ其御德義ノ方ニテ御名ヲ改メ祭ル名ナリ仍左右ノ小社大田命ト御一躰也又福德社并才天トアルハ非也此御神モ猿田彦ノ分魂（ワケミタマ）也并才天ハ天部ノ神ナリ是ヲ三女神ト御同躰トシテ多ノ水邊ニ祭ル神也三女神ハ日ノ神心化也又鎮守社不分明トアルハ是ハ青蓮院ノ宮ノ鎮守也其鎮守ヲ何レノ時分カ森家ヘ御預ケナリ森家ハ昔ヨリ　禁裏并青門主ノ御師タリシカ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

連久之時代ヨリ不奉仍テ今ハ其儀ナシ右ノ謂レヲ以テ森家預リシ処イツノ比カ大田社ノ邊ヘウツシ申由也仍テ神躰知レス

若宮社　彦火ゝ出見尊

是古傳本宮瓊ゝ杵尊奉窺ニヨリテ若宮社ヲ出見尊ト奉見ナリ本宮事代主命ト奉見レハ左ニ非ス此御社ノ御神躰不分明ニテ慥ナル證ナシカヤウノ不分明ナル義ヲ色ゝト義理ヲ付御神躰ヲ知ラントスルハ却不宜義ニヤ

奈良社　天児屋根命

右古傳非也春日ト御同躰ト見ルユヘ奈良トイフルト見ル者歟相違ナリ此御躰ハ保食神ナリ又奈良ハナラトデト申テナラ槲(カシ)ノコトナリナラトデトイフルハ食物ヲ盛ル為ニカシハノ葉ヲトヂテ用ユヨリ奈良トデト云何ユヘ大奈良社ト申ナレハ保食神ノ御徳ハ申モ更ナリ神書ニ委アル如ク五穀ノ神也右ノコトノ奈良トデハ食物ニカヽリシユヘニ奈良大明神ト奉號又廳屋ニテ末清ノ御膳又散(サバ)飯ノ御膳ト申シテ備ルコアリ是則初穂ノ心ニテ先奈良社ヘ備ル義ナリ又日供調進ノ毎度ニ采ヲ并ニ入テ覧前ノ外ヨリ神夫是ヲ備ルモ同事也旦末清ノ御膳ト號スルハ當社神領ノ

中近江國末清庄ト申所各別勝レタル庄ニヘ其御庄ノ
米ト申ヨリ末清ノ膳ト申也又散飯ト申ハ仏家ニ申
テト申トモ左ニハアラス此義清茂縣主考ヘニアリ

澤田社　太玉命

右古傳相違此御神ノ御神躰慥ナル證ナシ不分明先ハ五
穀ノ神ナルヘキ歟種条ノ節當社ニカキリ各別ニ奉幣アリ

氏神社　國常立尊

右古傳非也賀茂縣主等之遠祖建角身命也建角
身命ノ御ニ戻日本紀姓氏錄ホニ委シ大宮ノ森ト申テハ
大祖（オホヤ）ノ社（モリ）ト申ス也ニヽ

下社　拷幡千々姫尊

右古傳上社ヲ瓊々杵尊ト奉見故ナリ左ニアラス

卯太明神之大事　作法口傳

右極秘也先ハ保食神ト知ルヘシ

橋本社　岩本社ヲ業平寶方ト申ス甚非也業平寶
方信仰ノ社也岩本ハ底筒男命中筒男命表筒男命
橋本ハ一言主命也一言主ト事代主ト一躰ト云説アリ別
ト云説アリ

松尾社

大山咋神

右大山咋神ハ大己貴命ノ御別号ノ由 松岡氏ノ説ニ

獅ニ狛 光影狛

此義説ニ多シ神代巻ニ大酢片命苗裔諸隼人等
至今不離天皇宮墻(ミカキノ忠孔イヌニ)代吠狗而奉事者也此説ヲ用ユル
人有レモ如何又獅ハ異國ノ猛獣故悪鬼ヲ拂フ為トイ
ヘル此説信用シカタシ何大徳ノ神異国ノ猛獣ヲタノミテ悪
氣ヲハライ給ンヤ又當社ニハ前ニ覧聞戸トテ造化ノ
大フセギ有上ハ御戸ノ鎮子トモ見ルモ可也ト清茂翁説ニ
定ロヲアキメルトフサキメルトハ陰陽ニカタトルカ又影狛ハ
昔ハ御戸口南北兩方ニ有テ今ノ神殿ノ後北ノ御戸口表口
ニテ形アル獅ニ狛ハ北ノ御口ニアリ繪ノ狛ハ南ノ御戸口ニテ
リシ処嘉元年中ニ此御戸口北ヲフサキ南斗ニイタスヘキノ
託宣ノ事アリテ今ノコトク御戸口南ニナルヘ前後狛一
所ナリシトゾ

右之趣今度清忠卿勅主ヨリ相傳ノ聞書恐ラクハ聞
違可有之歟可吟味者也

右者今度當社御神躰并八重傳切戸擶戸ホ之秘訣
自經盛縣主依相傳被借贈写置之者也

文政七甲申年初冬

正四位下賀茂經千

私云右本ニ奥ニ記アリ

一山州名跡志曰御祖社（下鴨社ニ）神殿南向二殿雙東西所祭二坐東大己貴命西玉姫（タマノヒメ）大己貴命ハ素戔嗚尊御子也玉依姫ハ則上鴨神ノ尊母也鎮坐傳秘也○玉依姫傳神秘也○神祇正宗曰社家秘無申旨故難露顕云々○舊記曰賀茂在南北故云上下但雙ヘ云則云下上是即尊母ノ謂也（下畧）

一同書曰御祖（ミヲヤカハラ）原　詠山家集　其所不詳

山家集
月乃すむミおやの原ヨ君さへてチヨのかげ多ミなり

一或説曰下鴨社女神ナリ祭日近衛使於橋殿宣命時解

一劔昇殿上社ニハ帯劔也下社ハ女神ニ解劔云々

一同説曰御蔭ハ伊奘諾尊伊奘冊尊云々

一同説曰松尾社ハ大己貴命云々

一神書抄云冊塗矢者大己貴之所化也

一神社考云冊塗矢者今松尾大明神是也

以下氏徳家記ヽ写ヽ私ニ忘誤多不可信用歟

一子安神　進雄尊

一サカイノ大田田祢子命　祭之　大穴貴九代孫ヽ

崇神天皇記七年ニ卯月ニツル初也　同八年ニナラアルナリ　見エ

一結神　大将軍　石長姫命

一或説　梶田　大山咋ノ女

一同　氏神　未花　姉

児屋祢命也　大貴已尊トモ云

一或説　半木　或流木　大和物語ニ半木ト在

天太玉命　中賀茂神ト云ヽ

月令ニハ庁岡社ヲ中賀茂社ト云ツルカ岡山ニ鎮座トアリ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一山森　大荒木
浮田森
進雄尊（スカノヲノ）

一岩本　仲乙晴明也
和哥祖神　玉津嶋御神也
（ナリヒラハ氏神ノ化現ト云ヽ）

一橋本　筆道祖神　或住吉
（サヱカタハ氏神ノ化現ヽヽ）

一河尾　河伯龍神

一馹訪　天ノ御神ノタケミナカタ命

一山尾　大山祇神

一藤尾　住吉之社也　或月夜見尊

一土師尾　外　國常立尊

一揖尾　内　伊勢太神宮

一棚尾社　木花開耶姫
彦火ヽ出見ノ御母ヽ大山祇神ノ女瓊ヽ杵ノツヽ

一御幸社　坂神社奉代ヽ書リ道ノ案内ニツケ
玉フヽ経津主ノ神以坂神ニテヒキトヽル

一若宮　彦火ヽ出見尊

一太田社　天細女命　猿田彦大神

鎮守　百大夫　白髭　皆一躰
命違ヨリ下民ニ至ルニテ　券子ニ成息災ヽ
玉垣ノ内ニテノ井アリ　シトヽリノ子ニ呑スレハヨキヽ

貴船神
一端御社
（ミツノ）
脇象女神也　又（ソラ）嵩岡象
（ミツハ）

一奥御社　進雄尊
梶取天細女神也天ノ岩船在万幸不遍ヲ遍ク給
ノ子カイトレテ不成ト云事無ク

一澤田　経津主神也　香取大明神
春日社ニ

一奈良社ニ　武甕槌神　鹿嶋大明神

一氏神ハ　大己貴神　大宮ト云日吉ト同
天児屋根命

一片岡　事代主神大己貴尊ノ子ニ
一言主命ニ云　國ヲ天孫ニワタシエツリ給ユヘ神供ノ
以下神ニ備進有之先主ヲモチイテンニ只一芝ノ
申子カニヲカナヘ給ヘトシ

氏人ノ誓

君ヲ祈ルニ只一言ノ神ノミヤニ心ナキホトハシルラン
國ヲ一言ニテソノマヽ天孫ニ被進ノ故ニ一言トハ云

本社傳云

一聖徳太子記云

長流在東山連在西南者晴廣北者山門下西小山之麓月神座　月神と志～まてう

石川や瀬々の小川乃清けれは月そ流てうつるも

一本朝月令云

建角身尊娘玉依姫得矢屋根ニ置子ヲ生七歳之年諸神ヲ集給時父ニ盃ヲサセトタヘツノミノミコト仰在ハ天ニナケ上ケ則天ニ上リタマフ

別雷命云

雲別ノ神代ハ志ら世て今と犯ケるつゝ

丸やと春月ノ那

一卜定記云

細文尊天ノ岩舩ヲ神代浦ニツケ給フニヨキ尊

一日本紀一書云高皇彦霊尊以真床覆衾表

裏天津彦國光彦火瓊ニ杵尊ニ――亦

タ鹽土老翁

瓊ニ杵尊也

遠久哥

久方ノ天ノ岩舟ヨギヨセシ神代ノ浦ハ今ノミヤノ野

一口傳云

日向之龍之高千穂日二上ヨリ大和國葛城ノ
ウツリ是ヨリ又山城ノ賀茂淺ミウツリテス

君カタメ三國ウツリテ清キ川ノ流ヨセテメル
於茂ノミヤカモ　瓊ニ杵ヲソヘオハシマシテ

秘中神秘

一太子旧事記云三千世界ニ於テ水無故方
物ヲ生長ヘシ然ニ味鋤高彦根尊ニ、キノミコト
天ヨリ月夜見命ニ於テ忽ニ殺ノ給ヒ天尊田ノ奠ノ
葉ニ天ヒ谷井乃水ヲツヽミテ注キテ以テ其水ヲ称下天
ヲテ三千世界ノ廣メ給ヲ高キ山ヘハ水不行故其ウヘヲ
いよハ雨我後さしめそみ雷神をちをヲ給テ雨ヲフラシ
給ヲ國土万物富豊万物成就ヲする幸ヒ當宮ヒ神恩
也

已上長氏　氏徳
養男　和シ以写畢ヌ

右右以宗氏ヲ記本写ヲ　干時文政七甲申年冬ヽ経ヲ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

千時
安政二丙辰年四月下旬写之
不許他見深可秘蔵也

經啓

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

皇太神宮遷號并
御内陣秘事

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

一 萬治三庚子年五月十七日備中守季周自先代傳授被
仕来處々々授り畢其上不殘有之ニ付成房へ御相
傳之覺

一 賀茂別雷皇太神八國常立尊也云陰神ニ而御内證ハ
陽神也陽極而陰生シ陰極而陽生スルノ義ナリ
天照皇大神陽神而陰神也天照皇太神未タ不
降臨而天上ニ座而下境ヲ照シ給フ御神也當社ハ
開闢之初天地之中生一物其形如葦牙便化為

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

神号國常立尊ト云ノ以御徳可知下境ニ於降之神
テ生ニ中津國ニ神也生ニ天地之間者今日之人ニ貴賤男女
行座動浄皆以賀茂太明神之御カケナラスト云事ナシ
天照太神ヲ先ニタテ當社ヲ二立ル内陽神ニ而陰神
アラハレ玉フ故也辞言ハ弓ハ半月ノ形ヲヒヤウス陰之形也矢
ヲハゲテ豊ヲ引ハ満ル形トナル是ヲハナテハ陽ヲ生スルツ
矢ハ陽之形也陰形ハ満レハカケル理陽ノ形ハ一ニ而カケス左ノ手
ハ常ニ空而所作ヲナシ右ハ表事ト而ナサスト云事ナシ動
カスト云事ナシ雖然弓ヲ取時ハ左ヨリ出テ右ヘ入陽性
陰性也當社男神之元ノリ雖然陰神トアラハレ給フ即神ナル
故ニ陽神天照皇太神ヲ二立テ陰神別雷皇太神ヲ二立也
一別雷神ト申ハ天徳陽也地徳陰也万物皆地ヨリ生セストニ云
事ナシ陰之徳也雷之字雨カムリニ田ヲ作ル陰徳ヲアラハシ
國土ヲ主メシ萬物豊饒之御神之徳ニヨセテ号シ給フ即
名也ト云ヘ

一一説ニ云當神太明神ハ天御中立尊ト云大祖天神水徳
降而主ニ中津國ニ之即徳也神欤
神号ニ
國之字上ニ有ルハ陽神天字上ニ有ルハ陽神也

一御生所之事神代之昔し也ハ社未社迫神壇イタヽイテ御旅所ニ降臨ナル今四月二番之午之日御生所ヨリコナタヘ御榊ヲ立サスハ先カヤウニ仕置ハモツタイナキ事ナリ神殿ヲ造スヘキトテ御榊ヲナシタルアトヲナレタル也今世俗地祭ナトスル意也榊ニ幣ヲ付ルハ神ノ降臨ナス心也清浄潔白ノ帛形神之御スカタ也四月二番之午ノ日御生所ニ神幸ト月周ノ日御向馬之夜迂宮ト時ハルカニ陽タリ乙事ナリ初而造営ハ白凰年中也降産スノ昔ハ神代ハ昔也今為毎年例行之已然不審繁多ヽ重ヲ言也

一當社神殿者葵造也秘ニ中之秘也

以是可知也

一葵當社之御紋乙事誠ニ神之御徳ニヒトシケレハナリ始テ二葉ノ生ヘ出ルハ陰陽也二之中ヨリ一之物生リ其中ニ十二月之數有リ端ヲリカヘルハ冠之エイノ形チナリ日カケノ緒ト云色紫サキナルハ天子御冠ノ如シアラヒハ日ニアフ也花日ニ向也葉ノ両端ノ圓ニ巡ル形ハ水文也水徳也又云草

木之中二葉之中ヨリ一ノ物ナレハナレ神妙也トニヽ以是
天子之玉冠ニカケ玉フ御幸也

一冠之エイ根元ハ紫ノ糸緒ヲ以テエイテウセロニテムスヒサケルヲ
日本ニライテ是ヲツヽメテウセロニサスノミトス今以唐ニ
ユウトニトニヽ

一冠之立ニ有ル中ニ二トカナル物アリ日輪ヲカタトル陽ノ形也
下之横ニ作ルハ陰ノ形ナ立ノ中ニ十二月カ有リ

一烏帽子ハ冠リヲリヤクシテ形トル是モ立所ハ陽ノ形チ向ノ
中ニ圓ナル所ノ物ヲナヽ日輪ヲ形ル下ニスデラ横タエルハ陰

之形チ　私云　月輪ノ形、チカ下ノナクリノ横ナルハ陰ノ形ナ也

別雷社攝神八社末神尊号

別雷皇太神宮

是則先天之元氣御神也是則先地之靈御神也
是則先人之性心之御神也太元尊曰

一座

片岡社

大己貴命（オホアナムヂ）　素戔烏尊子也　地主神

貴布禰社

伊弉諾尊
伊弉冉尊
幸魂（サキミタマ）尊
奇魂（クシ）尊

新宮社

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』　請求記号 832-305　ガラス使用

太田社
若宮社
奈良社
澤田社
氏神社
流木社

猿田彦命
天鈿女命
瓊々杵尊
武甕槌(タケミカツチ)命
經津主命
倉稲魂命
天兒屋根命
天太玉命
事代主命

末社尊号

栂尾社
土師尾社

楫尾社
山尾社

藤尾社

川尾社

諏訪社

木花開耶(コノハナサクヤ)姫命
天照太神

豊受大神
大山祇命
天香山戸命

大己貴命

水象命
賀茂良姫命

健御名刀命

本朝諸一覧ニ大己貴ノ一男也

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

橋本社　衣通姫命

岩木社　底筒男命
中筒男命
表筒男命

神宮寺　大己貴命
宁岡社

聖神寺　貴布祢社　伊弉諾尊

梶田社　木花開耶姫命

藤木社　瀬織津姫命

貴布祢社　伊弉諾尊

大田社末社尊号

白鬚社　猿田彦命

百大夫社　船魂命

鎮守社　大物主命

福徳社　倉稲魂命

貴布祢社　伊弉諾尊

岐神社　猿田彦命

貴布禰末社尊号

梶取社　猿田彦命

岡本社

濱本社

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

梅宮　木花潤耶姫命

白石社　下照姫命

已上賀茂清豊相傳之旨也

錦織家記云 季張縣主多傳此說妄誕不經之說也後昆不可信用矣 清茂朱午

賀茂本宮八社古來相兼神号秘訣

本宮　天津彦火瓊々杵尊

棚尾社　石木花咲也姫命

竹岡社　大己貴命

諏訪社　御子事代主命

御供七有一摂社名故也

貴布禰社　高龗（クラオカミ）

奥津盤烏尊　口傳

神代巻曰按劍斬軻遇突智為三段其一段是為雷神一段是為大山祇神一段是為高於筒美

新宮社　高於筒美

五百年計以前當所與鞍馬有半分道路之往来斷絶故奉勸請祭之歟

大田社　猿田彦命

一念云先生神也左右小社一躰福徳社弁才天鎮守社不分明

若宮社　彦火々出見尊

藤尾社　在河辺在也

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』　請求記号 832-305　ガラス使用

奈良社　天兒屋根命

澤田社　太玉命

氏神社　國常立尊

下社　栲幡千々姫尊

印大明神之大事

本宮内陣之大事

作法口傳

常向乾方一拜四月祭御向以後兩度之御戸開向
御卵之箱一拜御供祢宜方祝方各別倫御箸祢
宜方ニ計倫先御飯真下ニタノ御飯或鬼餅ヌホ、餅
ホ一遍御机我右之方倫其次鯛六枚又其次遍次第ニ
倫餘ル時ハ童カケテモ又ハ下ノ棚ニモ倫四寸下ニ童棚有
リ又其下八寸ニ童棚有リ又祝方ハ祝方ノ御棚ニ倫

一　御生所ニテ四月御祭之時奉幣之祝詞今日之奉幣使ヲ
其後神人御榎ヲ持来ル時御榎之中ノサキ幣ヲ取其後
詞向イ玉ヘ向ヘ玉ヲ但サキ幣五ツ入尺七ツハカリ取其後
神人榊ヲ持来ル時彼サキ幣ヲムスヒツクル但一本ニツヽ
五本ツヽクル結ヒサヽノ祝詞
移リ玉ヘ移リ玉ヲ

右之外次第共口傳アリ

歌之後ノ歌

大和賀茂澳(海イ)ヨリ流レ来シ

已上清令縣主相兼之大概也

右京権大夫賀茂清茂

一野々宮定基卿云

春日神躰　榊　笏也

上賀茂　　壐筥　御燒失以後無之　下鴨ハ鶴鏡二面（二ハ鳥）　于今現在(存イ)ス

午八月三日神号傳授　周直　芳氏　相伴守直

本宮　事代主命

右之説神訣曰天降リ(ノ)神代ヨリ先ト云ヘトモ又舟ノヘラ咬テサルトヲヒ則舟着ト云地有又廿一社之次第ハナリ又舟ノヘラ咬テ之神故八幡次座ト云ヘトモ大己貴尊ハ御位正一位

片岡社　大己貴尊

貴布祢社　高靈

新宮社　同躰

大田社　猿田彦命

若宮社　新殿之事欤

奈良社　倉稲魂命
沢田社
氏神社　健角身命

右尊号者清茂考之由也故言直之以日記勘之者雖傳授相兼之趣所見昌直家之本紙紛失歟不見及古之中依有之而令書寫畢者也　及古者焼捨畢

于天明、丙午年四月下旬

正五位下賀茂直一

當社傳来口訣

賀茂別雷皇太神
片岡大明神
貴布祢大明神　本作木舟
新宮大明神
大田大明神
若宮大明神
奈良大明神

秘中深秘々々中深秘極秘深秘也

天津彦火瓊々杵尊　奉号皇孫
大己貴命
貴布祢新宮　端本宮
闇龗水神　奥本宮
猿田彦命　素戔嗚尊
彦火々出見尊
天兒屋命

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

澤田大明神　　太玉命

氏神大明神　　大物主神　　上古祝部氏為賀茂氏日吉之神勧請　見系図ホ

下社
御祖皇大神　　栲幡千々姫

中賀茂ト号
河合社　　神武天皇　　恭福朝臣傳致直傳ナシ

松尾大明神　　彦火々出見尊

桐尾大明神　　木花開耶姫

別雷皇太神　　河合社両社者土御門兵部大輔恭福朝臣傳也敕年令魂
望之分許可雖然依為賀茂氏也他之氏全不許旨也極秘中深秘也　駿主致直傳

従本宮至桐尾社
元禄三庚午四月廿四日於御札屋甲非文守道直福千代大夫成宗月時相傳

右尊号者所被相兼故成宗也致巻物雖有之令復令書
写置者也
于時天明六丙午年五月中旬

正五位下賀茂直一

御祖神宮神名略

御祖皇太神宮二座

西 神日本磐余彦大皇（カンヤマトイワレヒコノスメラミコト）謚神武天皇ト

東 姫踏鞴五十鈴姫（ヒメタタライスズヒメ）

右社務家之説 社務家ニ有祐之卿近代之鴻才掌家自是是
此説同説指我神宮為天津彦々火瓊々杵尊ト

西 大己貴神

東

右祝家之説按非也神祇令ノ義解ニ云天ノ神トハ伊勢山城ノ鴨大己貴ノ神國神也非其正説可自知矣同説指我神宮為事代主事

齋殿（イミテン）

在于正殿之西祐之卿云祭（アガ）ル祭（マツル）三種神寶（信筆也）之霊徳ノ者也

所摂河合神社一座

延喜式ニ曰小社（ホコラ）宅（ヤケ）ノ神社ト是也

玉依姫 神武天皇之母

右祐之卿之説也

三身神社三座

式内亦曰八咫烏社亦曰葛乃倉社
今俗曰三井社

建角身命

伊賀古夜日女

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

玉依日子

一言神社　二宇

二言神社　二宇

三言神社　二宇

大己貴神

社務家之說也大己貴神有七名一曰日本紀一箇之口傳也七社分祭ル此七名ヲ

出雲弁於神社　弐内

瀬織津姫　天照太神荒魂

右御祖神宮摂社末社等之神名乃依筑後守言直

之請所書送也

元文三年壬十一月

吁岡祝從五位上賀茂縣主保尊

朱印　朱印

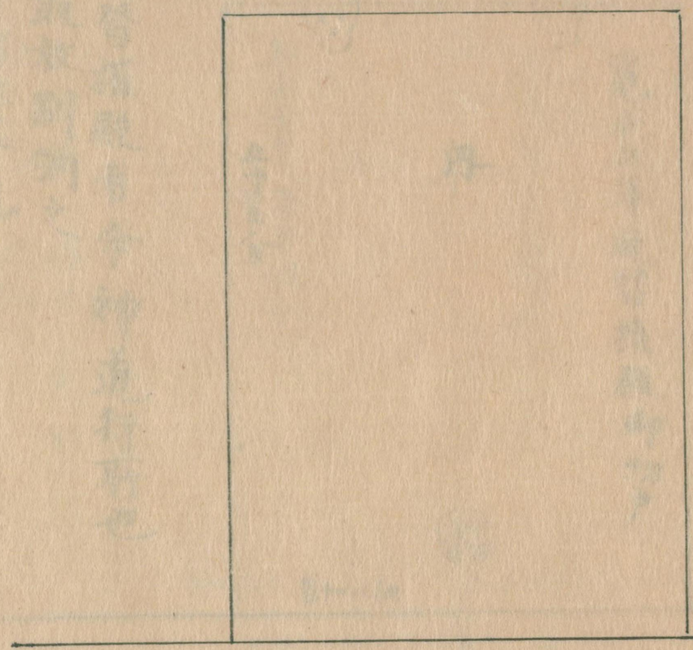
右祖社尊号者以故保尊之自筆　被故言直書送之書也　恐虫損故令復書写之署者也

于時天明六丙午年五月中旬

正五位下賀茂直一

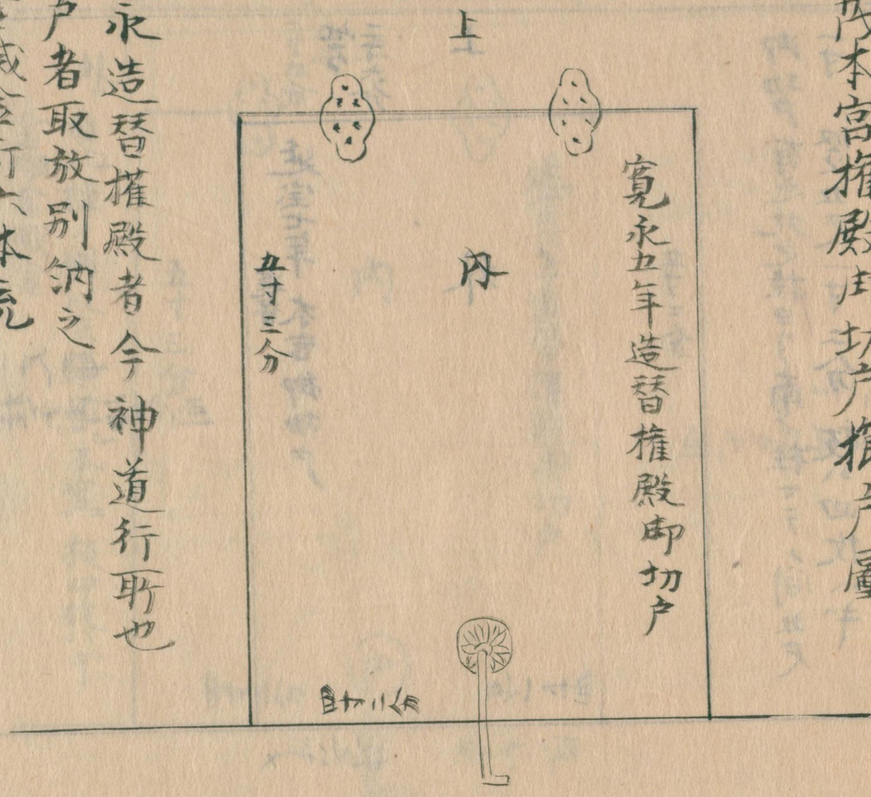
長朱印

賀茂本宮権殿御切戸攝戸圖 附口訣



直一私云巻物也

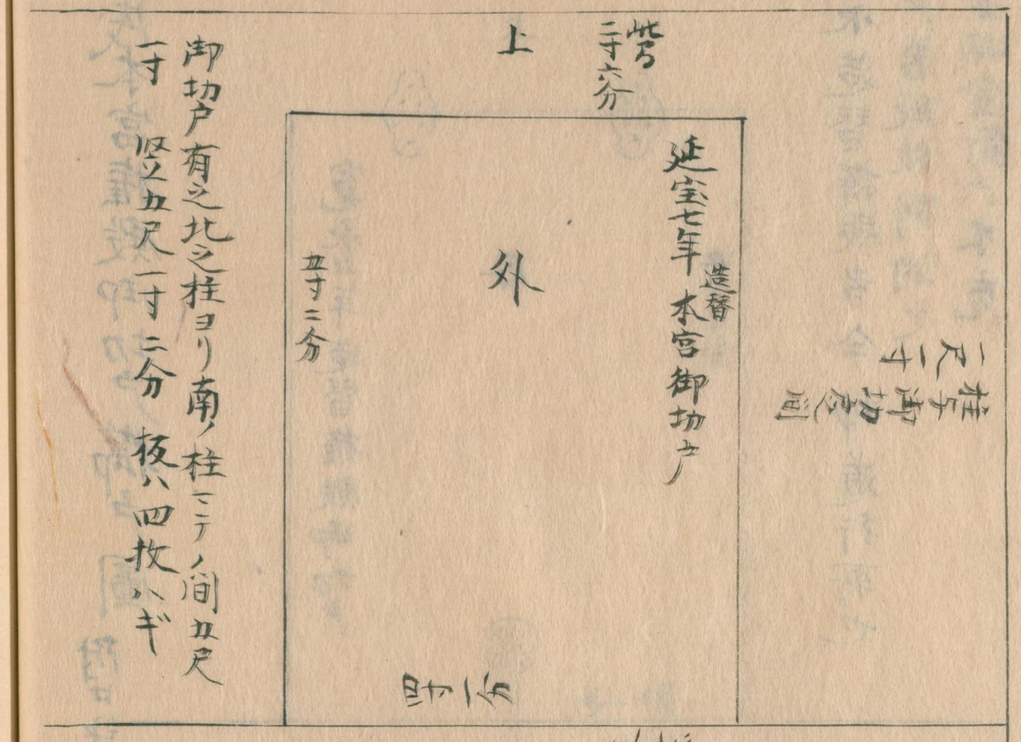
賀茂本宮権殿御切戸獅子圖 附口訣

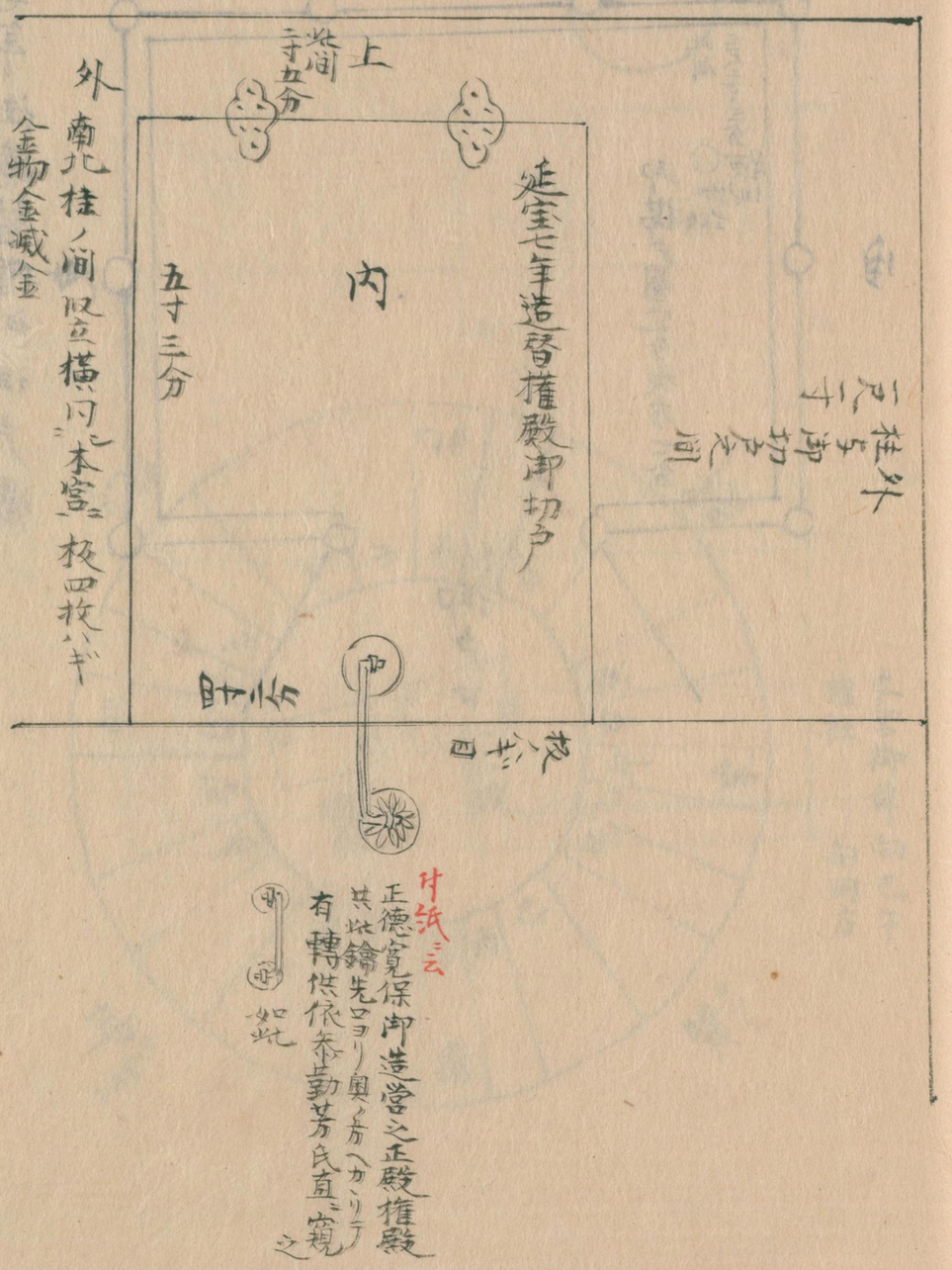


正徳寛保即造営之正殿
権殿共牝カギ先口ヨリ奥
ノ方ヘカヽリテ有
如此ニ

寛一永ニ巻物也

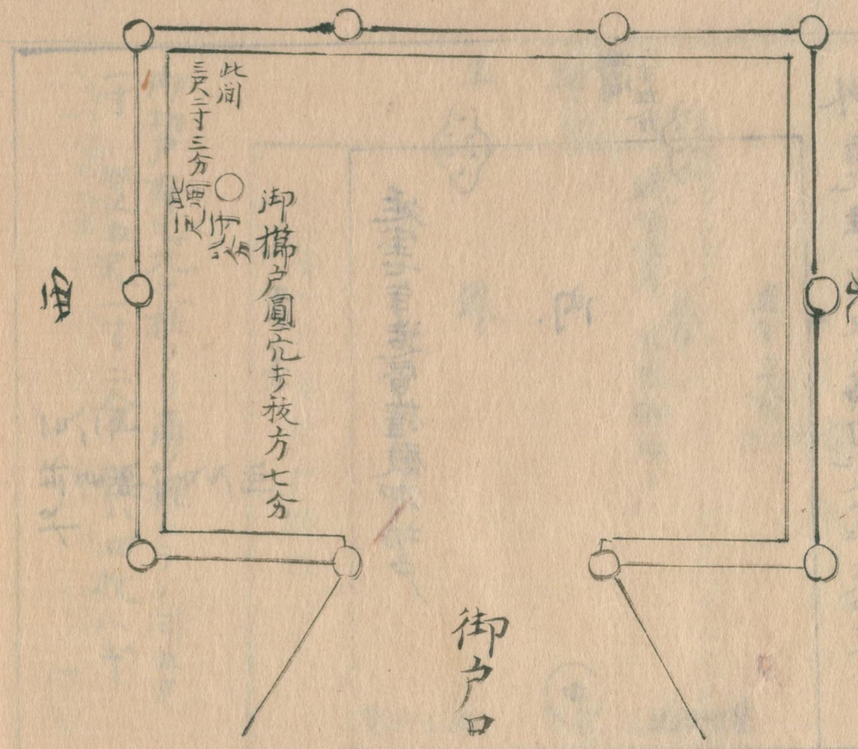
右寛永造替権殿者今神道行斯也
御切戸者取放別納之
金物金滅金釘六本充

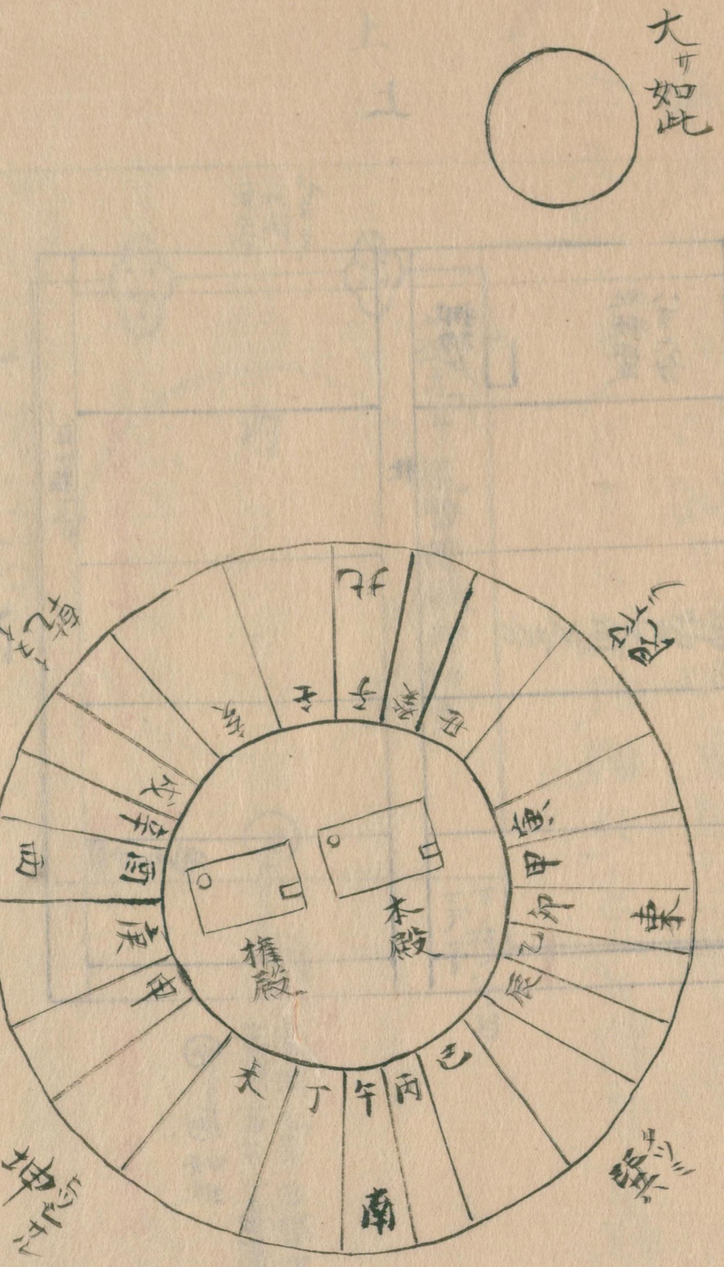

上
外
延宝七年造替本宮御切戸
御切戸有之北之柱ヨリ南ノ柱ニテ間五尺一寸 竪五尺一寸二分 板八四枚ハギ


上
外
南北柱ノ間竪横ニ本宮ニ板四枚ハギ
金物金滅金
内
延宝七年造替権殿御切戸
五寸三分
付紙ニ云
正徳寛保御造営之正殿権殿共此鍮先ヨリ奥ノ方（カリテ）有轉供依奉勤芳氏直ニ窺之
如此

延宝七年 御造替権御摂戸圖

北

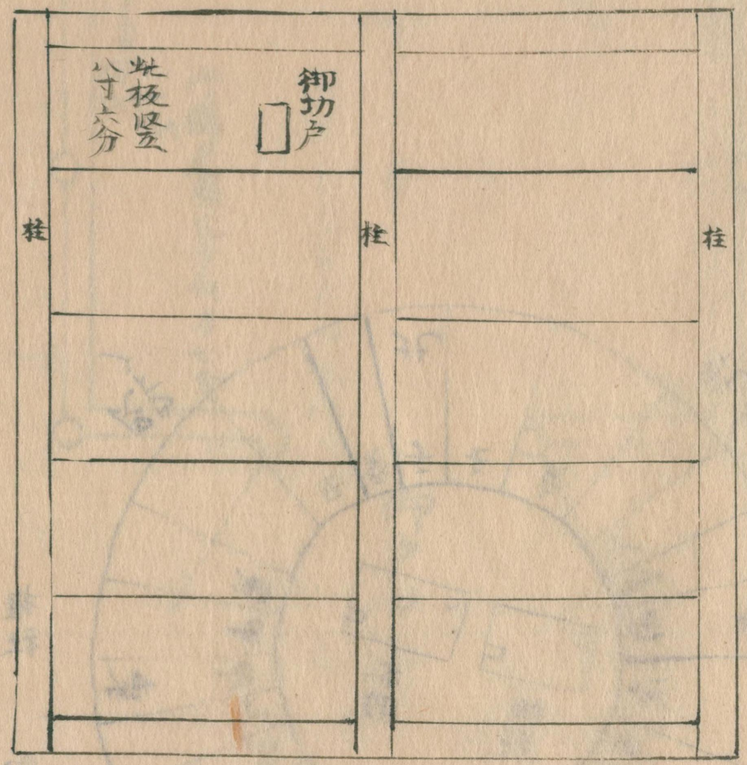




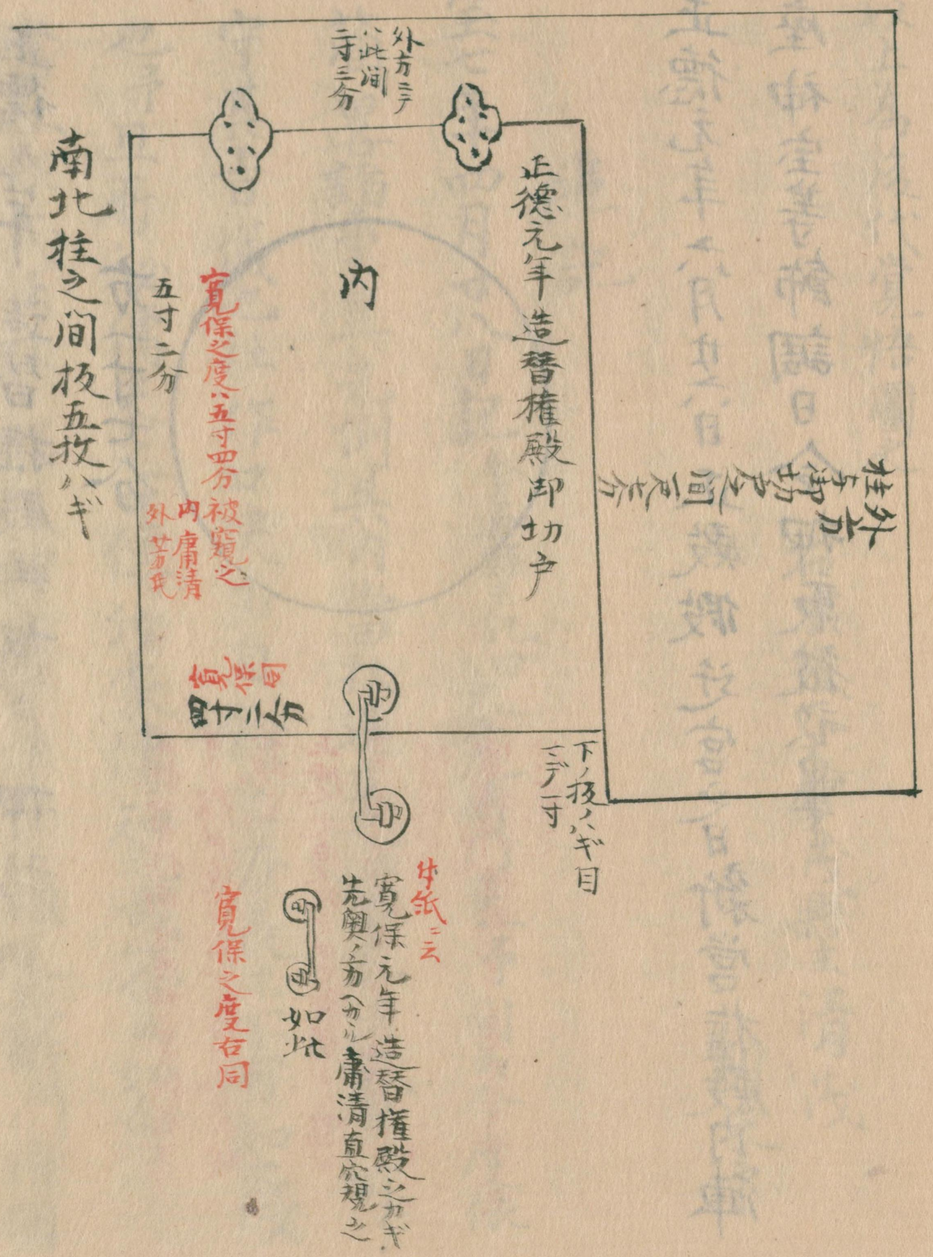
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

正徳元年新造権殿板ハギ目如此

上

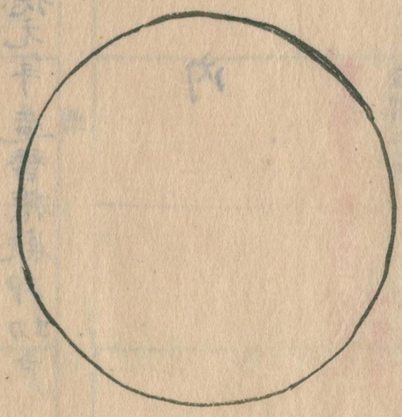


上



国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

正徳元年 造替権殿御櫛戸 押形 同本宮



方一寸七分

正徳寛保両度共西ノ方ヨリ櫛戸迄一尺二分五厘先宗被窺之

正徳之度北之方ヨリ敷居ヨリ櫛戸迄三尺九寸八分言直清達(本ノマヽ)

被窺之

寛保(虫損)権殿北ヨリ三尺九寸六分先宗被窺之

右正徳元年六月廿六日正殿假遷宮之日新営権殿内陣神座神宝等飾調日令押取彼形畢

以上為後代覚悟圖之

右京権大夫賀茂縣主清茂

判朱印

追記

一 延宝七年四月廿八日記 季通縣主記曰大工左衛門来予問云今度依簡畧諸事異先例其内當社造立之傳来法式專可守其旨伐也社作口決不自餘之番長不可知之伐也予旦暮秘傳来之口傳汝家傳知之哉答云如命當社作式法社之地引神宝寸法以下祖父左衛門簿圖

元書記変有之云々先年中井主水為検分来候之時於沢田拝殿令覧之畢主水褒美誠為社之正大工之家傳秘蔵事一社大切之儀云々於今度者諸事正大工為惣棟梁之子細無其詮惣大工並以工手間作料可支配之旨神主之定也猶断欤之後正権両殿并分正大工可差作之定也云々又左廊門云弘治天正社作之程式云東牲（ヒムカシノ）宮波之良（ミヤハラ）叔首（ヲシテ）楊氏漢語抄云叔首佐須奴音初牙反ツカ立也今度サス立之由有変改者也此作者禁裏御殿者サス立内ムロ作ト云々紫宸殿之作同前云々然於天正以前者如何不知證何故寛永内ムロニ作乎寛永者台徳院様御代諸事丁寧之皆造営也弘治天正者簡畧也然者如寛永度可作之由事定云々此可為如天正哉之旨雖断之又可為寛永之例云々又神主云只今内陣之板敷与大床外陣板敷相比者内陣者五寸昇ル下ル是又社之旧例欤然ニ今度内之板敷外大床平等可作上之由且是新儀欤云々御濵床之高不可入之間應其高而天井可指上之汰汰也云々予申云如有来可造之儀也昔以来下外陣大床之故只今入于内陣之時下リテ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

自由ニ進入之間可平等之由神主被決之ニ新儀
如何ニ予所傳之切戸巽東方之壁板是所陽之天
氣神靈通達之戸也取天陽者可為円形八方欠
古来為四方是地陰之象也且又乾方之板敷西方ノ下也
空穴一口是所陰之地氣祇靈通達之口也取地
陽円之穴當社深奥秘口訣也弘治神殿其口傳
不相違也於寛永神主用久不知此秘口傳欠但有
円穴哉否不審ニ於今度其円穴密ニ可作之由令
傳授了貴布祢祝氏之當社古老之正統傳来之
秘口訣也可秘ニ内陣ニ口傳甚深之子細人未知
之事也今度神主保可森維久相談諸事迂宮
事ホ被談合之由也両人其傳正統口訣有相兼
哉未審如何ニ左衛門退出畢

一 季張縣主傳授記云貴布祢社ニ板敷ニ穴有之戌
亥方ニ有也其名ヲ撫戸ト云社ニ限也 當社ニハ東方板ニ切戸穴アリ是モ當社

限才一傳也云々

清茂云貴布祢社ニ有攝戸事未曽有事也
正大工家ニモ無此傳故延宝正徳之御殿無之云々
不可信用之鴨本宮東西二社并河合御殿ホ有

一 正和二年九月一日花園院宸記云今日平中納言経
親雑談之次語申云後深草院御
御坊戸而攝戸之有無不知之可尋也
之戸立御倚子而御座其時令見上天井給ヘ方穴
駈テ有タリトヤ此事ヲ兼于問答工之處不結
構而可有此穴哉云々是清涼殿与殿上之間ノ造様
無力如此穴可有也云々尤有奥事也下戸ニモ如此穴
可有云々是造内裏ノ物語次所申也又資季卿(故二条大納言入道)
語云柱ノ袋ト云物錐ノ通ル名字未見其躰而不慮於
繪見云々如法奥ケリト云々如此事記置事也錐
無詮ケノ有奥之間為後見記之

清茂ノ

花園院宸筆暦記依見宮御傳来
令上旨而拝覧之于茲件
也頃日予蒙
右當宮内陣上下之戸口古老相兼
吾氏門者

私云以経成家一巻加之
口記文相叶于吾神宮切戸攝戸之義因茲出之誠稽古之冥加自愛秘蔵無比類者也
又按攝御戸(ノミト)一作奇御戸(クシミト)神代巻云霊異奇御戸(クシミカド)之意也久之比者秘訓有口授一

傳来之秘口訣也縱雖為氏門之人苟非其人不可
授之穴賢愼之莫怠矣因誌

正五位下守右京権大夫賀茂縣清茂
小朱印大
朱印

此兩相者元文三年戊午正月廿六日從清茂潮翁蒙
傳授依許借令書寫者也

從四位下賀茂縣主言直

天明六丙午年三月上旬令書写了

正五位下賀茂縣主直一

文化十三子歳仲秋寫之
不許他見深可秘藏也

中大夫經十

干時
安政三丙辰年卯月下旬寫之
不可他見深々可令秘藏者也

従四位上賀茂經啓

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

明治二巳年十月従神祇官
賀茂社御鎮座 御由緒 祭典 神剣之事
并下社より同様差上候事等之草稿之写

明治二巳年十月従神祇官賀社
上表書文之写　十月十八日神祇官ヨリ賀茂社ヘ御鎮座
御尊崇不混他社叡慮
御尋指
当官之条事実相違無之哉
朝廷之
御尊崇不混他社叡慮之条
一日
叡慮之
御尋指
当官之条事実相違無之哉
朝廷之
御尊崇不混他社叡慮

ご事由右之通記載仕此世ニ
為残置候 天長元年六年営於義神宮ニ奉
造修理之儀なるを勿論ニ候 其後
度々ニ而遂営ニ修理ニ不絶ニ
桓武天皇延暦十三年 長岡都ニ
行幸ニ而其後数十度ニ
ます 嵯峨天皇皇女有智
代ニて社務ニ奉仕ニ候 ニ
なり 菊神宮ニ 初而
斎宮ニ 卜定ニ 文武ニ 義ニ
なり 御書載有ニ 程ニ
ニ 定ニ

宮事義ニ奉仕
旨ニ而 黄幡ニ 内記ニ
ニ 神宇 勅使ニ
後一條院ニ 宮ニ
宮ニ 勅ニ 集物ニ
右記ニ 書記ニ 其外
垂手ニ 持幡ニ 其ニ
候ニ 御事ニ 絶ニ
上階ニ 物ニ 御ニ
当神宮ニ 事ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

し所ゟ始ゟ哥ゟ
但賀茂社ゟ事ゟ重史並諸
ゟ方ゟ〻依ゟ二つの比ゟ
奉ゟ

移ゟし事

片岡社
片山社ゟ云
坐事ゟ社
新宮社ゟ
深田社ゟ
片山社ゟ

ゟ内ゟ社ゟ
ゟ社ゟ事

ゟ社ゟ大田社ゟ共ゟ
ゟ社ゟ事

ゟ典ゟ事

二宮中納言ゟ奏ゟ
勅ゟ旨ゟ以ゟ
依ゟ唯ゟ
ゟ祭ゟ再移ゟ
ゟ奉ゟ
ゟ事ゟ
ゟ社ゟ
ゟ嘉ゟ

二月下旬ゟ陣ゟ
ゟ天皇ゟ
ゟ年ゟ
ゟ剣ゟ
ゟ年ゟ
ゟ社ゟ
ゟ

二月十四日ゟ
後一條院ゟ
ゟ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305　ガラス使用

鴨里大神宮御鎮座即由緒書

當里大神宮ハ幸者乃一天擁護靈社猶威光於四方施徳化於
万國尊神也殊ニ
當國一宮ニて従上代
朝廷之御尊敬他社不倶祭祀之志厳重成事者也史令義
解延喜式ヲ始諸家之旧記顕然ニ候得共年歴久敷無遂一勘ニ
御鎮座之儀者年紀遼遠ニて其古傳を詳ニせん事
當国俊鏗之儀者
紫宸天皇七年被勅定之事

天武天皇白鳳年中被定之事鴨社
水雷ニ被附候ハ申伝ニ其後
御代々清定之事ハ
後一條天皇長元九年丙十三日
新ニて伊勢神宮ヲ等しく之事紀ヲ定ム一年
ニ式年ニ遷宮有事無怠
御代々毎ニ之事ニ候ハ年乃宮
機嫌ヲ奉窺御守天下ノ安寧五穀豊饒胥
吾日予稽ニ百ニ錄於ヲ調錄御神楽乗遊ヲ事ニ
斯詔ヲ始ヲ社傳ヲ記ス

宇多天皇いまし王侍従と申奉りしとき野の行幸
ありに供奉せしめ給ひて陰の木をおほせ給ひ
ける折ふしに我がやどのをばなの花ちりたる
御門にまゐりたるをめして花ちりたる
しなどとおほせ給ひければ
嵯峨天皇弘仁之年 皇女有智子内親
下上皇之事宣下奉齋仕始之式ニ載らるゝ
事者

宣命文者諸注黄紙書之但奉
行勅之事宣旨ハ以縹紙書 賀茂社ハ以紅紙書と
者依之歟 又神宮封戸ハ
孝徳天皇大化二年ニ始テ十ヶ所 一所ハ
業 御宇代田卿加增有之就中
後一條天皇 覧仁元年依
勅願當國愛宕郡 一郎 奈加良
下上皇之事宣旨ハ諸司ハ諸寺ハ諸
宣命ハ四位ニ於ハ見任ハ
位ハ有位ハ 四位ハ中務卿ハ諸司ハ
嵯峨天皇 弘仁二年四月廿日 供奉

シ修造ニ弥ニ
堪ヘ奉ラン事ヲ
寛治四年七月諸國不動田
七百四拾町ヲ供田
被奉寄是神税不足故也此外所在新ク寄紀
不伺數箇所寄附即座於本社
歎ク數奉存於事ニ依テ其他四至之外ニ
不得妄往鴨川汚穢禁制ヲ格文ナシト
雖ク數奉存於事ニ依テ其他四至之外ニ共濫僧侶者
行幸 御幸ヲ儀諸史ニ
乗輿天皇天慶年ヲ以神社
行幸ノ濫觴トハヘシ
抑武天皇姫蹈事ヨリ
行幸ノ
始ル又ニ宮城

ヲ営ヲ南ニ遷一編奉任
聖運於斯神ヲ其後
行幸 御幸ヲ數十箇度ヲ未奉牧擊ニ遷行ル
順徳天皇ヲ承久ヲ間
上皇慶称宣祐綱ヲ聚亭ニ臨幸ヲ在祐綱義父ニ
正月廿紋ニ従ニ位ヲ加様ニ難有ヲ
神威霊験ヲ儀有ヲ人ヲ知ラ許ニハ在ヲ名始ヲ
社役

棋社之事

河合社 比良木社 賀茂祢社
三所社 御蔭社

此外末社数多ありと雖
祭日之事

四月中辛日
賀茂御祖神社
例祭
十一月下酉日
賀茂別雷神社
例祭
四月中申日
松尾神社
例祭

大祓
年中諸祭事
年内従吉日一社のいづれとても執行仕候
年末度毎に無滞執行仕候
変に依り執行仕兼候節は
御届奉又は申上候ニ及ばず
賀茂県
賀茂別雷
松尾
関白殿

神領之事

社普請等を以諸國愛宕郡四ヶ郷を始諸國庄園厨新等
併数十箇所 厳重に申触候処 文明應仁之兵乱以後新絶仕候
近郷ニ郷古跡ニ於ては取集候正一位中豊太閤様地ニ帯候
村高之内を以 高百弐拾石
宛行候

祝
賀茂県
社二付

社家
於末社ハ社家等ニ於ても
収納仕候
社家
末社ニ付
賀茂県

京都府乙訓郡長法華村
同郡神足村
同郡菖蒲谷村

832
97
305

花山村図書室寄贈

古之通大略注進仕候上

巳十月

鴨社

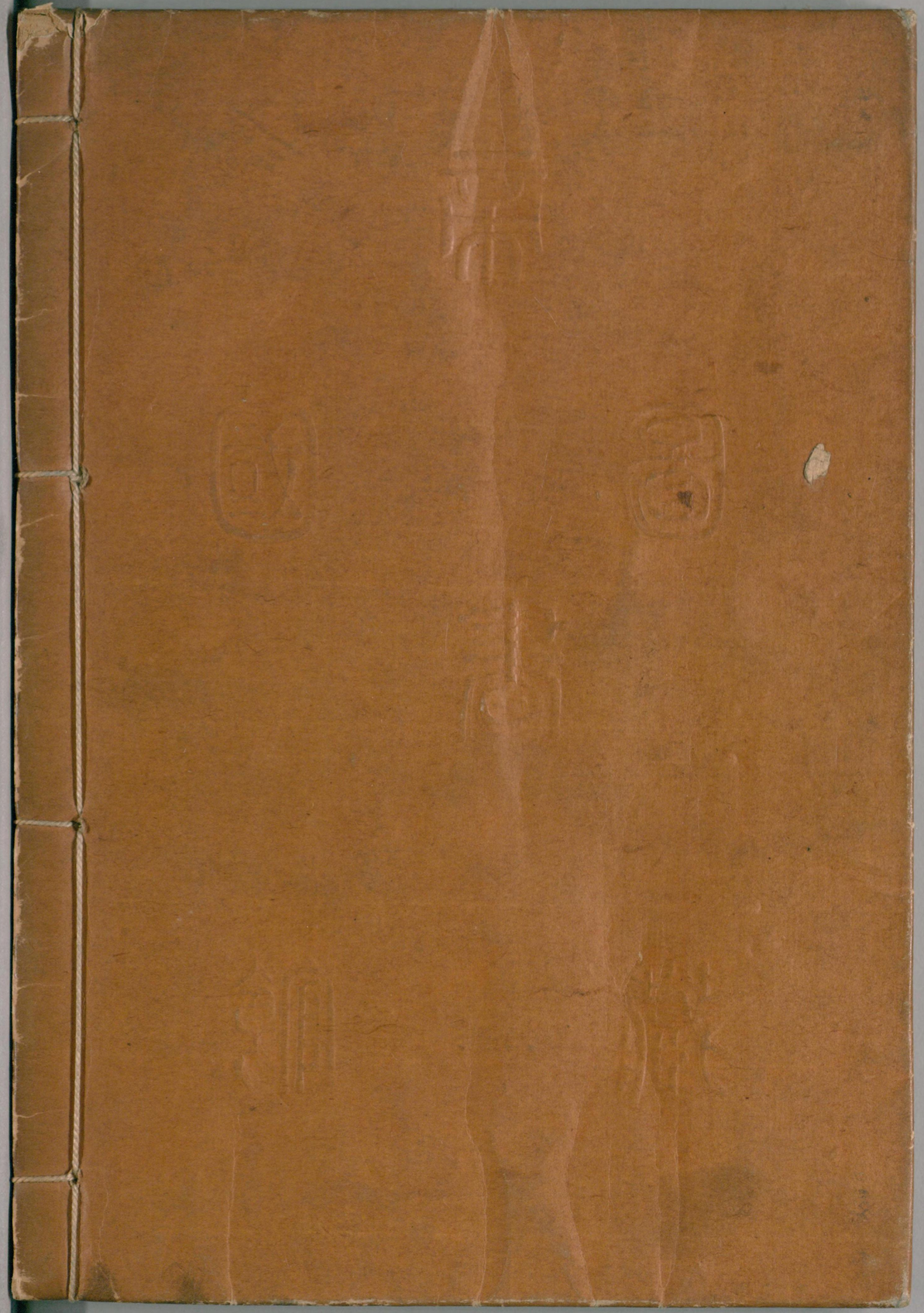
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

832
97
305

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』 請求記号 832-305

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第2冊』　請求記号 832-305

ガラス使用